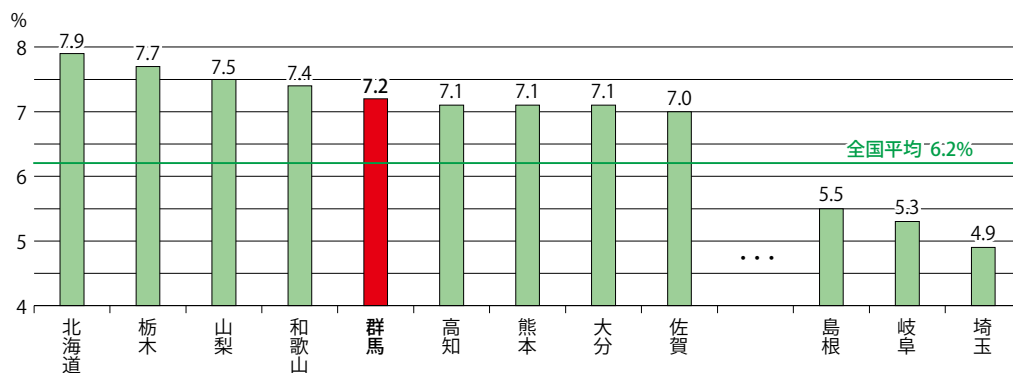


群馬の献血率は全国5位

- 日本赤十字社によると、2025年度に献血した人の延べ人数は、群馬県内に87,177人おり、この数を献血できる16～69歳の人口で割った「献血率」は7.2%であった（図表1）。都道府県別の献血率をみると、群馬は、20～29歳を除く、その他の年代で全国よりも高い水準となっており、全国平均の6.2%を上回る全国5位となっている（図表2）。
- この背景には、群馬県と群馬県赤十字血液センターが連携して、若年層、特に高校生を対象とした校内献血に取り組んできたことが挙げられる。群馬では、献血率全国2位の栃木県と同様に、高校献血の普及啓発を進めてきており、こうした若年層での献血経験がその後の年代での献血に繋がっているようである。
- しかし、近年の動向をみると、献血率は低下傾向にあり、2021年度と比べて、60～69歳を除く他の年代で低下している（図表2）。
- 若年層での献血率の低下は、将来の医療体制を維持するうえでのリスクと考えられる。こうしたなか、群馬県では「令和8年度献血推進計画」を定め、群馬県赤十字血液センターや市町村と連携し、県民の献血に対する理解を深め、協力を促す取り組みを進めている。また、群馬県赤十字血液センターでは、若年層への献血啓発活動や各種イベントの実施に加え、献血Web会員サービス「ラブラッド」による継続的な献血への協力促進により、将来にわたって必要な血液を途切れなく患者に届けることができる体制づくりに取り組んでいる。

図表1 都道府県別の献血率（2025年度）



資料：日本赤十字社「血液事業年度報」

図表2 群馬の年代別の献血率

() 内の数値は2025年度－2021年度 単位：%

	群 馬		(参考) 全国平均	
	2021年度	2025年度	2021年度	2025年度
全 体	7.4	7.2 (▲0.2)	6.1	6.2 (0.1)
16～19歳	7.6	6.8 (▲0.8)	4.5	4.8 (0.3)
20～29歳	5.8	5.0 (▲0.8)	5.5	5.1 (▲0.4)
30～39歳	6.8	5.8 (▲1.0)	5.5	5.2 (▲0.3)
40～49歳	8.7	7.3 (▲1.4)	7.0	6.3 (▲0.7)
50～59歳	10.7	10.4 (▲0.3)	8.6	8.6 (0.0)
60～69歳	4.1	6.1 (2.0)	3.9	5.5 (1.6)

資料：日本赤十字社「血液事業年度報」



群馬県内を巡回する献血バス

(担当：丸岡美智世)